Ⅰ．経済学部として行った組織的活動

1. 地域連携・生涯学習センター（旧　生涯学習教育研究センター）

本学地域連携・生涯学習センターのもとに南紀熊野サテライト、岸和田サテライト、まちかどサテライトが設置されており、同センターと 3 サテライトの事業運営に関わる審議については、地域連携・生涯学習センター企画運営委員会がこれを行っている。同委員会には、大泉英次教授（南紀熊野サテライト長）、大西敏夫教授（岸和田サテライト長）が委員として出席している。

同センターが 2012 年度に実施した事業のうち、経済学部教員が関与したものは以下の通りである。

2011 年 12 月 10 日（土）に和歌山大学松下会館 50 周年記念式典が行われた。

2012 年度土曜講座第 5 回 2012 年 8 月 4 日で、立命館大学河音琢郎教授（元本学経済学部教授）が講演「震災後の自治体財政の役割を考える」を担当した。

同じく第 11 回 2013 年 2 月 2 日（土）で、佐藤周准教授が講演「震災時に役立つ地域コミュニティ」を担当する。

2. 南紀熊野サテライト（旧　紀南サテライト）

南紀熊野サテライトは、紀南地域において、①大学の研究・教育機能やシンクタンク機能を活用して、紀南の地域づくりに貢献する「大学の地域ステーション」を目指す、②住民自ら地域を見つめ、地域を変える活動を支援する、③地域の力に支えられ、地域とともに発展する「新しい知の拠点」を目指すことを目的に、種々の事業を行っている。

その事業内容は下図の通りである。

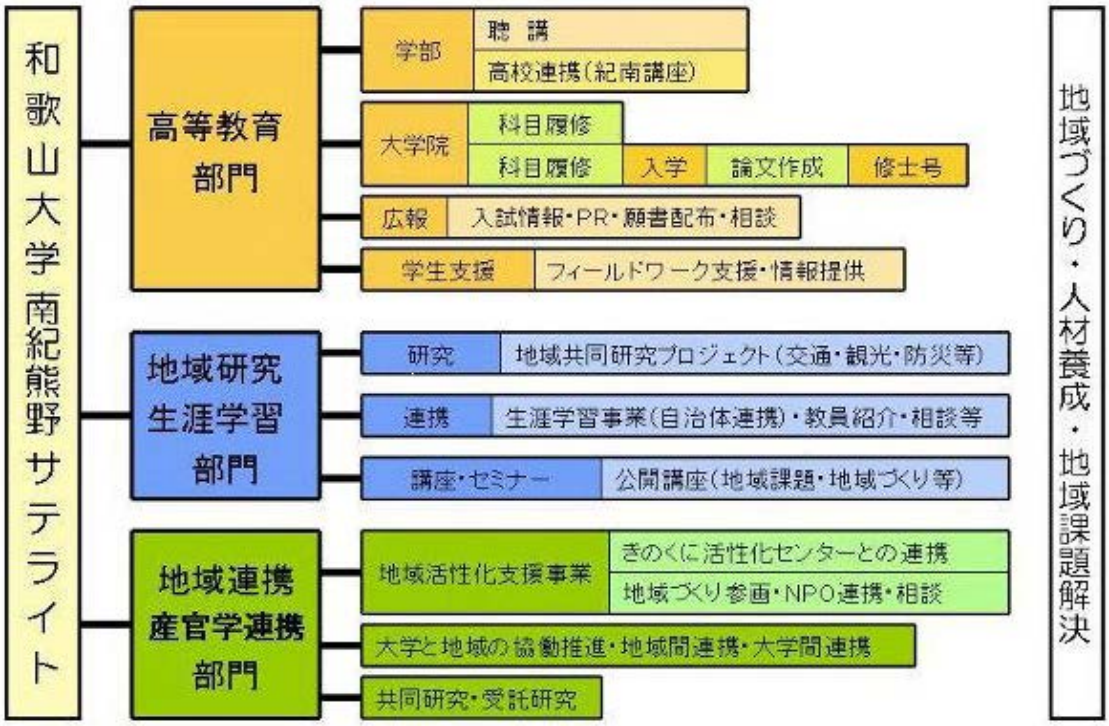

図1　南紀熊野サテライト構成図

同サテライトが 2012 年度に実施した事業のうち、経済学部教員が関与したものは以下の通りである。

大学院授業科目のうち前期開講「環境・自然エネルギー革命：″環境″と″防災″を統合した地域づくり」を中村太和・元経済学部教授が担当した。

同じく後期開講「住民自治と地域社会」を中島正博准教授が担当する。同じく後期開講「紀伊半島学Ⅱ」の一部を鈴木裕範教授ならびに足立基浩教授が担当する。

学部授業科目のうち前期開講「災害と復興を考える」の一部を大泉英次教授が担当した。

3. 岸和田サテライト

岸和田サテライトでは、これまで①学校型事業、②非学校型事業に大別した形で、岸和田市をはじめとする泉州地域のニーズに対応した事業展開を行ってきた。2008 年度においては、岸和田市との地域連携協定 5 年目の節を迎えたことを踏まえ、今後の事業展開について、和歌山大学・岸和田市地域連携事業戦略チームを作業部会として設置し、点検・評価と今後の事業展開のあり方についての検討を行い、その結果を 2009 年度、2010 年度の事業展開に反映させてきた。また、2011 年 4 月には、岸和田サテライト開設 5 周年を迎え、特別事業として同年 12 月に「5 周年記念フォーラム」を開催した。以下では、2012 年度の事業展開について、経済学部との関わりを中心に記す。

3.1. 学校型事業

(1) 大学院授業

市民ニーズを取り入れながら「大人の学びをプロデュースする」という目的の下、2006 年度より経済学研究科等において科目等履修生を対象とした大学院授業を実施してきた。経済学研究科では、06 年度 5 科目、07・08 年度 6 科目を開設し、サテライト事業の中核を担ってきた。09 年度以降においては、更なる拡充をはかり 8 科目を開設するとともに、租税法を研究科目とする社会人を対象とした研究指導を岸和田サテライトにて実施するなど、サテライト授業の拡充・体系化に努め、サテライトでの租税法科目の研究指導を経て 2010 年度 2 名、2011 年度 10 名が修士課程を修了した。また、社会人受講生の要望を反映する形で、フィールドワークなどを取り入れた授業展開など、工夫を凝らしているところである。

2012 年度の経済学研究科開講科目と担当者は、以下のとおりである（前期のみ受講者数を示す）。

［前期開設科目］

・国際租税法特論　袴田祐二　11 名

・租税法特論　片山直子　３名

・会社法特論　清弘正子　４名

・現代社会と民事紛争　吉田雅章　15 名

［後期開設科目］

・法人課税論　森江由美子（非常勤講師）

・連結会計特論　山田恵一

・公共経営論　江口雅祥（非常勤講師）
・現代マーケティング論　柳 到亨

(2) 学部開放科目
より幅広い市民の知的要求を受け入れる場として、08 年度から新たに学部授業を開講している（聴講生形式)。2012 年度は、前期２科目（教育学部・観光学部担当)、後期 1 科目（システム工学部担当）を開講。

3.2. 非学校型事業

岸和田市を中心に、市民の地域研究・生涯学習活動を共同した形で、地域学習活動の推進を図っている。本事業は、和歌山大学地域連携・生涯学習センターが核となって積極的に展開しているが、経済学部の教員も、地域研究活動や学生の調査研究活動等として参画している。

3.3. わだい浪切サロン

岸和田サテライトを、泉州地域住民と和歌山大学との交流・連携の身近な場とするため、2008 年度より、毎月第 3 水曜日という定時定点方式で年 10 回「わだい浪切サロン」を開設してきた。2012 年度も同様の形式で開催しており、同年度末で 50 回目を迎える。和大教員が様々なテーマで話題を提供する形で展開しており、常時 40～70 名程度の参加を得て好評を博している。

[2012 年度わだい浪切サロンで話題提供を行う経済学部教員（予定を含む)]
・藤田和史　2012 年 12 月 19 日（水）
・中島正博　2013 年 1 月 16 日（水）

3.4. 岸和田サテライト友の会の活動

2007 年 12 月に岸和田サテライト大学院授業履修生（ＯＢおよび受講中の社会人学生）をメンバーとした「友の会」が発足し、会員は約 90 名に達し、総会や講演会活動など活発な活動を行っている。2012 年度の実施事業は下記の通りである。

・岸和田サテライト 2012 年度後期開講科目説明会・友の会夏期講演会：2012 年 7 月 21 日（土）
江口雅祥（経済学部非常勤講師)「公共部門の経営（パブリック・マネジメント）について考える」
・岸和田サテライト 2013 年度開講科目説明会・友の会冬期講演会：2013 年１～２月開催（予定）

経済学部においては、サテライトの科目等履修生から本課程に進み、修士課程を修了した方の研究報告会や経済学部教員による講演会企画、さらには、サテライト授業や本課程募集の広報など、多面的な形で友の会との協力関係を構築してきており、こうした関係づくりは今後さらに重要性を増すものと考えられる。

3.5. 高大連携事業の推進

2008 年度に岸和田市立産業高校から経済学部に対して高大連携の申し入れがあり、引き続きその具体化に取り組んでいるところである。なお、2012 年度に実施した事業は以下の通りである。

岸和田産業高校生の和大経済学部訪問（ゼミナール見学と懇談会）　2012 年 7 月 13 日（金）（高校生４名参加）

3.6. 南紀熊野サテライト、まちかどサテライトとの連携の強化

2010 年度においては、南紀熊野サテライトとの共通科目を開講したほか、2011 年度からは、まちかどサテライトを加えた３つのサテライト間での情報交換、交流の場を定期的に設け、連携強化を図っているところである。

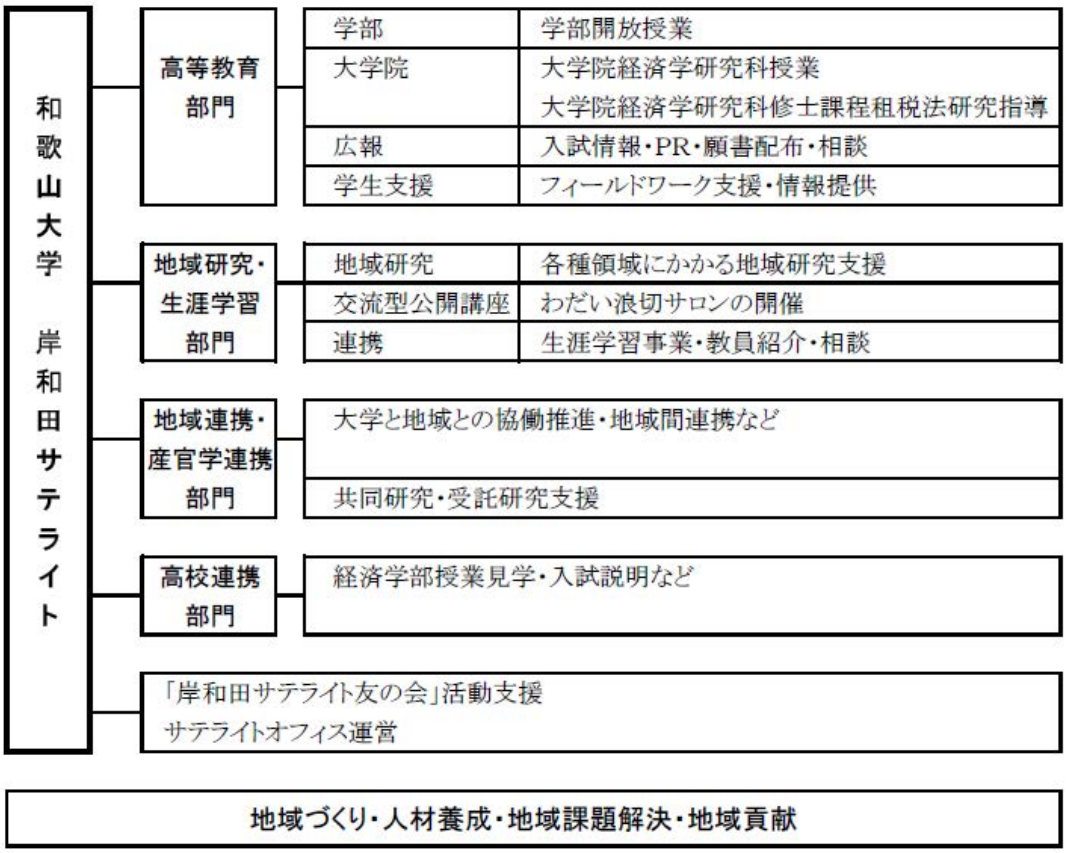

図２　岸和田サテライト構成図

4. 産学連携・研究支援センター（旧　地域共同研究センター）

産学連携･研究支援センター（旧地域共同研究センター）は地域貢献機能の拡充を図るために，2010 年より独創的研究支援プロジェクトを学内で公募している。経済学部からは 2010 年に 1 件採用された。

代表者　辻本勝久
課題名　「民産官学連携による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の

充実」
期　間　2010 年～2011 年度
配分額　5,836 千円（内 2011 年度配分額 2,511 千円）

5. 国際教育研究センター

「国際教育研究センター（IER センター）」は、海外の教育研究機関との国際交流、受け入れ留学生の教育と生活支援、派遣留学生の教育、国際交流教育、また国際共同研究を柱として、2004 年に発足しました。センターは、「国際教育セクション」、「国際研究セクション」、「支援セクション」の三つのセクションと事務組織とが連携し合う形で成り立っています。経済学部は、海外研修科目「海外語学・社会演習」の引率者として所属教員を派遣するなどして協力しています。

・2012 年 3 月　海外語学・社会演習（オーストラリア・カーティン工科大学）　藤永博
・2012 年 9 月　海外語学・社会演習（中国・東北財経大学）　王妙発

6. 紀州経済史文化史研究所

紀州経済史文化史研究所は、「紀州地域の経済、文化の史的研究及び自然に関する基礎的研究並びにそれらに関する資料の収集及び公開を行い、「知」の提供を通じて地域社会の発展に寄与すること」を目的とした施設です。本研究所は、和歌山大学の創設まもない 1951 年に設立され、すでに 50 年以上の歴史を刻んでいます。この間、紀州関係の史的研究や資料収集等の活動を行い、全国的にも知られた研究施設として事業を進めてきました。

こうした活動の蓄積が認められ、2007 年 2 月には博物館相当施設に指定されました。主な事業は、紀州地域の史的研究や資料収集、地域との共同研究、史料保存及び展示の開催、史料等の閲覧サービス、研究紀要、フィールドミュージアム叢書の刊行、研究会・シンポジウムの開催などです。

本研究所は、図書館棟 3 階にあり、展示室、貴重書庫などを備えています。大学博物館としての機能も充実させ、学内の学生・研究者に対する教育・研究支援はもちろんのこと、県内外の博物館・研究施設や研究者との交流・連携をはかり、地域の研究情報センターとして地域史研究の核となる役割も担っています。最近では、大学に閉じこもることなく、さまざまな地域へ出かけ、展示やシンポジウムの開催なども積極的に行い、地域貢献に寄与しています。

2010 年度 11 月より 2011 年度にかけて紀州経済史文化史研究所が主催している事業で、経済学部教員が関わっているのは、下記の取り組みである。

・企画展「移民の仕事とくらし―アメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリア―」）
（於：図書館 3 階紀州研展示室）
期間：2011 年 10 月 18 日（火）～11 月 22 日（火）

担当内容：監視（上村、長廣）

・パネル展「世界をつなぐ和歌山県人会との交流」

（於：図書館・システム情報学センター1 階展示・掲示コーナー）

期間：2011 年 10 月 18 日（火）～11 月 22 日（火）

担当内容：監視（上村、長廣）

・シンポジウム「和歌山から世界への移民Ⅱ」（於：観光学部）

期間：2011 年 10 月 29 日（土）

担当内容：出席・案内（上村）

・企画展「博物館資料実習企画展」（於：紀州研展示室）

期間：2012 年 2 月 14 日（火）～3 月 15 日（木）（常設展と同時開催）

担当内容：監視（上村）

・常設展「和歌山大学のなりたちと和歌山」（於：紀州研展示室）

期間：2012 年 2 月 14 日（火）～3 月 15 日（木）

担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣）

・公開フォーラム「地震・津波・洪水と文化財―台風 12 号被害資料保全活動の経験から―」

（於：和歌山大学まちかどサテライト）

日時：2012 年 2 月 19 日（日）

担当内容：挨拶、会場設営、進行（上村）

・現地見学会「和歌山大学周辺の環境は今…」（和歌山大学前駅開通記念企画）

日時：2012 年 4 月 7 日（土）

担当内容：参加、誘導（上村）

・企画展「和歌祭―渡り物と練り物の芸能―」（於：紀州研展示室）

期間：2012 年 4 月 10 日（火）～5 月 18 日（金）

担当内容：監視・説明、図録執筆（上村）

・企画展関連イベント「御船歌大学練り歩き」（於：大学構内）

日時：2012 年 4 月 18 日（水）

担当内容：会場整備、案内、映像記録（上村）

・和歌祭会場での「みる・きく・たのしむ　和歌祭」の図録改訂・増補版の配布

日時：2012 年 5 月 13 日（日）（於：和歌浦東照宮）

担当内容：案内、図録配布（上村）

・常設展：「和歌山大学のなりたちと和歌山」（於：紀州研展示室）

期間：2012 年 4 月 10 日（火）～5 月 18 日（金）

担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣）

・企画展：移動パネル展「移民船に想いを馳せて―絵画と資料でつづる船上生活―」

期間（第 1 期）：2012 年 5 月 28 日（月）～6 月 28 日（木）（於：紀州研展示室）

「移民船に想いを馳せて―絵画と資料でつづる船上生活―」

担当内容：監視・説明（上村）

期間（第 2 期）：2012 年 7 月 5 日（木）～19 日（木）（於：和歌山市民図書館）

「移民船に想いを馳せて―資料でつづる船上生活―」

2012 年 7 月 5 日（木）～12 日（木）（於：北コミュニティーセンター）
「移民船に想いを馳せて―絵画でつづる船上生活―」

・常設展：「和歌山大学のなりたちと和歌山」（於：紀州研展示室）
期間：2012 年 7 月 30 日（月）～現在
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣）

・企画展：移動パネル展「移民船に想いを馳せて―絵画と資料でつづる船上生活―」（続）
期間（第 3 期）：2012 年 8 月 22 日（水）～9 月 2 日（日）（於：紀州鉄道車両内）
「虹の架け橋―和歌山からブラジルへの移住者たち―」
期間（第 4 期）：2012 年 9 月 13 日（木）～25 日（火）（於：国際交流センター、ビッグ愛）
「移民船に想いを馳せて―資料でつづる船上生活―」
＊関連イベント、9 月 21 日（金）、談話会
期間（第 5 期）：2012 年 9 月 29 日（土）～30 日（日）
（於：田辺の BIG-U、南紀熊野サテライト）
「移民船に想いを馳せて―資料でつづる船上生活―」
＊関連イベント、9 月 29 日（土）、トーク＆カフェ「和歌山から世界へ―移民の足跡をたどって―」南紀熊野サテライト
期間（第 6 期）：2012 年 10 月 2 日（火）～8 日（月）（於：田辺市文化交流センターたなべる）
「移民船に想いを馳せて―資料でつづる船上生活―」
期間（第 7 期）：2012 年 10 月 20 日（土）～11 月 25 日（日）（於：和歌山市立博物館）
「移民の仕事とくらし―アメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリア―」

・「『和歌山高商創立から 90 年の歩み』写真展」（於：和歌山大学学生会館）
日時：2012 年 10 月 13 日（土）
担当内容：写真・説明・パネル（上村・長廣）

7. きのくに活性化センター業績報告

きのくに活性化センターは、和歌山大学と地域が連携して紀南地域の活性化を図っていくことを目的に、2002 年 4 月、和歌山大学経済学部と紀南地域の自治体、経済界などが参画して設立されたもので、毎年度委託事業のほか独自事業、共同企画などを行なっています。

2011 年度は、１件の事業を受託したほか共同事業１件、独自事業 2 件を実施しています。2012 年度は受託事業１件、共同事業２件、独自事業１件を進行、または計画しています。

そのうち、経済学部教員が関係する事業は、つぎのとおりです。

7.1. 2011 年度に取り組んだ事業

7.1.1. 串本町「くしもと・大島の歩き方」マップ作成

串本町商工会からの委託で、大島の観光振興と地域活性化を目的に、和歌山大学経済学部学生の協力

で、大島・樫野・据え地区でフィールドワークを実施し、観光マップにまとめた。
　教員　鈴木裕範

7.1.2.　伝統食文化ブラッシュアップ事業

　わかやま産業振興財団「平成 23 年度産官学研究推進事業」を活用し、熊野地域の伝統食である高菜を利用した新たな「めはりずし」の試作品を作り、提案した。今後も引き続き参画した有志で検討を進め、商品化をめざす。
　教員　鈴木裕範

7.1.3.　学生たちが聞き取った「太田・村の暮らし３６５日」作成・刊行

　和歌山大学経済学部学生が、平成 22 年度から那智勝浦町で地元住民と協同で展開している「太田の休耕田・耕作放棄地再生モデル」事業の一環で取り組んできた村の生活文化の聞き取り調査の結果を冊子にまとめた。報告書は、地元にフィードバックし、地域づくりの機運の醸成の寄与に努めた。
　教員　鈴木裕範

7.1.4.　「奥熊野・北山村の１００話」（民俗誌」の製作・刊行

　北山村の委託事業。過疎・高齢化が進行するなかで、「地域づくり」事業の一環として村の記憶を「村の民俗誌」として刊行するため、年中行事、生活譚、民話（昔話・伝説）、俚謡等を調査・執筆する。
　教員：鈴木裕範

7.1.5.　大学と商店街の連携交流による新宮市仲之町商店街活性化モデルの研究

　商店街活性化に向けて、さまざまな取り組みを展開している仲之町商店街で、和歌山大学経済学部の学生が、商店主に聞き取り調査を実施し、報告書を作成する。それと並行して、仲之町と商店街をテーマに商店主らと学生による討論会を開催し、「連携・交流」の可能性を探る。
　教員　鈴木裕範

7.1.6.　「南海・東南海地震と紀南―串本町住民意識調査―」

　和歌山大学経済学部では、過去２回「南海東南海地震に備える」というテーマで学生の活動として住民意識調査等を実施し報告書にまとめ、地元報告会も開催してきた。今回は 2011 年の東日本大震災、紀伊半島大水害、さらに南海・東南海地震の被害予測の見直し、南海トラフ地震の発生も予想されるなかで、住民の意識調査を行なう。その活動を支援する。
　教員　鈴木裕範

7.1.7. 「廃校舎の利活用と地域再生」

廃校舎の利活用を地域づくりの視点から再生する。そのために、地域に呼びかけて「廃校舎と地域再生研究会」（仮称）を発足させて勉強会を数回開催、その成果をふまえて「フォーラム」を開催する。
教員　鈴木裕範

8. 和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は、経済学部、観光学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所と共に研究・政策提言活動を行っている。2012 年度活動として、「和歌山市まちづくり戦略研究～持続可能な都市構造をめざして～」「和歌山市のまちづくり戦略と都市間交通網に関する研究」をテーマとして 2 つの研究会が活動している。

2012 年度の本学での役員、研究メンバー、刊行物は次のとおりである。また、Web サイトの運営、メーリングリストサービス等を提供し、事務局業務についても貢献している。

8.1. 役員

理 事 長: 遠藤史
理　事：石橋貞男、鈴木裕範

8.2. 研究会

【和歌山市まちづくり戦略研究会】

和歌山市を中心とした和歌山市圏域における将来の望むべき姿～「持続可能な都市像」＝グランドデザイン～づくりを研究する。地域特性を活かしながら多くのひとが交流し「住んでよかった。来てよかった」といわれるまちづくりのビジョンを構築することが目的である。

研究員：大泉英次、足立基浩、鈴木裕範、中島正博

【和歌山市交通まちづくり研究会】

和歌山市を取り巻く都市間交通網に様々な変容が見られ、期待と懸念が交錯する中、あるべき和歌山市の実現に向けた都市間交通網の活用方策や改善方策について、鉄道・フェリー網、航空網、高規格道路網について取り上げ、3 年計画で研究を行う。

代　表：辻本勝久
研 究員：辻本勝久、藤田和史

8.3. 刊行物

機 関 誌：地域経済 No.16　2012 年 7 月発行
研 究 成 果: No.23　和歌山市のまちづくりと公共交通幹線の再構築　2012 年 3 月

9. 柑芦会

経済学部同窓会は、和歌山大学経済学部の前身である和歌山商業高等学校の第1回卒業式にあたり1926年3月に結成され、その後1929年に当時の岡本校長によって「柑芦会」と命名された。

柑芦会は、会員相互の親睦を図り、かつ、母校と会員との関係を緊密にし、その隆昌と発展を助け、あわせて社会文化の進歩向上に寄与することを目的としている（会則第2 条：1968年制定）が、大阪支部では、近年「人生と仕事の幅を広げる！」をモットーに会員及び現役和大生に向けて数コースの「人生塾」を開催している。

2004年9月からは、和歌山大学の教員を講師とする「研究わくわく人生塾」を新設した。
経済学部教員を中心に、ほぼ2ヶ月に1 回大阪支部会館に出向き、10名程度の会員等に、「研究の楽しさ」や「現在の研究テーマ」等について、講義を行っている。

なお、今年度は、経済学部（高商）創立90周年を迎えるため、記念企画として、柑芦会各支部からの要請に基づき、記念講演を各支部総会等にて実施している。

9.1 研究わくわく人生塾講師

・クパニ　ルンビディ 2012年1 月25 日（水）
「"Lean Methods & Environment Problems：Lessons from US EPA"（リーン生産システムと環境問題:アメリカ合衆国環境保護庁から学ぶ)」
・竹田　明弘 2012 年3 月27 日（火）
「ヒューマンサービスと動機づけ」
・三吉　修 2012 年5 月29 日（火）
「地方自治体の現状と課題-条例制定権を中心に-」
・阿部　秀二郎 2012 年8 月2 日（木）
「19世紀の経済思想の状況－革命と保守－」
・尾久土　正己 2012 年9 月21 日（金）
「2012 年 9 月、和歌山大衛星、星出宇宙飛行士の手で宇宙へ～和歌山大学の自主性創造性教育と宇宙教育～」
・妹尾　剛好 2012年11月6日（火）
「日本企業における予算管理の現状と課題」

10. 地域連携オフィス

地域連携オフィスでは、以下の 3 点の活動目的を確認し、それに従った活動を展開してきました。

①経済学部の組織および教員個人における地域社会への貢献活動の実態をとりまとめ、学内外への情報発信をはかる。
②地域社会の様々なニーズに応えるための学部の窓口となる。
③他学部、各種のセンターをはじめとした学内の諸組織との情報交流を進め、地域連携のネットワーク

をつくっていく。

なお、地域連携オフィスは、地域社会への貢献活動の幅を広めるべく、グローバル化に対応した組織整備を行い、本年１１月より名称を「地域・国際連携オフィス」に改めると共に、地域・国際連携コーディネーター１名を配置した。教員の海外での研究活動実績等をコーディネートし地域社会・産業界とのマッチングを行うなど連携の幅が広がることを期待する。

10.1. 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

昨年度の『社会・地域貢献活動一覧』冊子をもとに、学内諸組織での経済学部教員の活動、経済学部の OB・OG 組織である柑芦会、きのくに活性化センターなどの学外組織との連携活動など、社会・地域貢献活動の実態把握につとめました。さらに、個々の教員の活動についても、ゼミナール・講義等での学生、大学院生とのフィールドワークなども包括する形で情報収集につとめました。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降の取組みについて、本冊子の編集・刊行を行いました。また、本冊子のうち、組織的活動の概要については、広く学内外に情報発信しています。フィールドワークについては、地域連携オフィス委員の活動を中心に情報発信することとしました。

10.2. 地域社会のニーズに応える窓口

地域連携オフィスが地域社会のニーズと経済学部教員のシーズとを円滑につなぐ機能を果たすため、オフィスの位置づけと機能を図３のように整理しました。

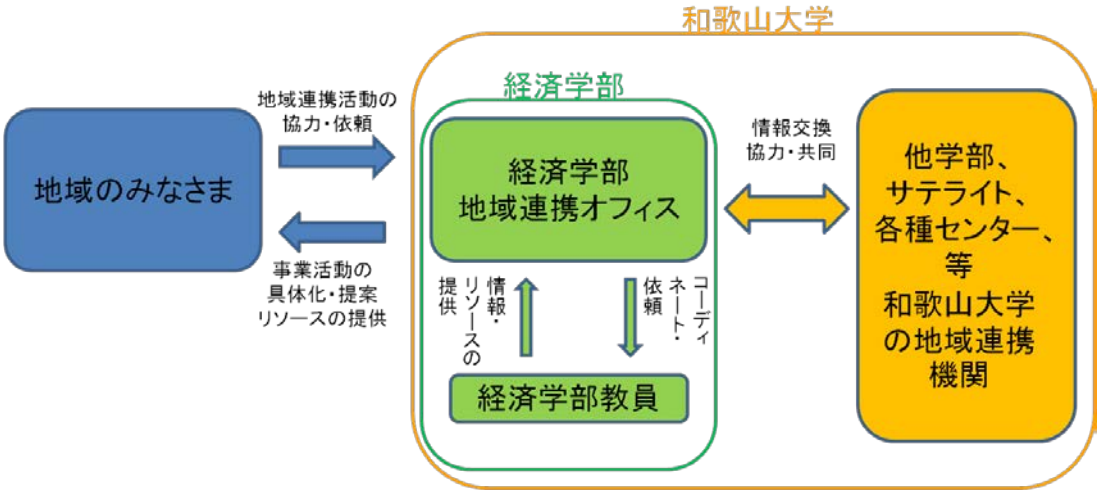

図３　地域連携オフィスの窓口機能に関するイメージ

こうした整理に基づいて、地域連携オフィスに寄せられた各種依頼のコーディネートにとりくみました。また、経済学部の Web サイト内に地域連携オフィスのページを作成し、学外への情報発信と窓口機能の整備・充実をはかりました。

10.3. 学内諸機関との情報交流とネットワークづくり

2010 年 7 月に和歌山大学は、地域社会・産業界との連携を進めていくための組織改革として、「地域創造支援機構」を創設しました。本機構には、産学連携を行う「産学連携・研究支援センター」（旧・地域共同研究センター）と、地域連携・生涯学習事業を行う「地域連携・生涯学習センター」（旧・生涯学習教育研究センター）が設置されています。現在は地域連携・生涯学習センターに附属機関として３サテライト（南紀熊野サテライト・岸和田サテライト・和歌山大学まちかどサテライト）と防災研究教育センターが設置されています。

全学の新しい体制のもとで、地域連携オフィスは、今後とも紀南熊野・岸和田サテライトをはじめ学内の地域連携機関との日常的な情報交流の円滑化につとめてまいります。

10.4. 地域連携オフィス委員会の運営

2011 年度の活動（委員会を計 4 回開催）を引き継ぎ、地域連携オフィスの組織活動と運営方針を議論する機関として、地域連携オフィス委員会を、下記の 7 名のメンバー構成で、計 1 回（2011 年 8 月時点）開催してきました。

地域連携オフィス 2012 年度メンバー一覧

石橋　貞男（室長）
大泉　英次
大西　敏夫
鈴木　裕範
藤田　和史
脇田　淳一
山本　敦子（8 月末迄）
上野　美咲（11 月以降）